

ここが聞きたい

ずばり村政を問う!

一般質問は、会議録に基づき、質問者本人が編集し、議会広報特別委員会で構成し、掲載しています。詳細は、会議録の閲覧ができます。



一般質問

ここが聞きたい ずばり村政を問う!

笠野 真喜議員

酒米をブランド化する考えは

笠野議員

震災から4年、村の復旧・復興も令和2年度にはインフラ整備も進んだが、農業に関しては4年間農作業に従事出来ずに高齢化が進んでいる地区もある。

遊休農地を減らし、優良農地を残す事が課題だ。

①農業後継者のいない高齢熟知農業者と新規就農者・新規参入法人との共同経営に支援を行ってはどうか。農業を守る行動をしなければ、農地は荒廃の一途を辿る。高齢熟知農業者が抱える農業後継者がいない問題と、新規就農者が抱える経営の難しさ・離農者が多いという問題を併せて解決することが出来る。

②有機農業の聖地を目指し、『水の生まれる村』とPRしている本村に酒米(山田錦)の栽培を増やし、ブランド化に取り組む考えはないか。

③人・農地プランの集計が行われているが、10年後の担い手をどのように育成するのか。

どれだけ支援できるか精査したい

村長

①農業を長く担い、後継者がいない農家と新たに農業を始めたいという人たちとをマッチングさせるといい提案だ。農地とか農業施設だけではなく、大事な技術や知識を知らない新規就農者に引継いで

いくということは、非常に有効かつ合理的だ。このような制度はないので今後どうやって対応できるか調査したい。

②本村における酒米作りは現在16名20haで栽培され、熱い思いの賜物である。



品質の高いものを作っていくことはたやすいことではない。生産者と相談しながら酒米のブランド化にどれだけの支援ができるか精査したい。

村内酒米で商品化された
左 純米酒「山」
右 本格米焼酎「南阿蘇」

③10年後の担い手不足は、今以上に深刻な問題になると考えている。新規就農者を育成していくことが集落の活性化のためにも重要な施策と考える。今後は経営能力に優れ、自分自身の目標をしっかりと持てるような就農者を増やしていく。講演会、研修会、勉強会など行い、担い手が育つよう努める。将来、地域のリーダーとなるような優秀な担い手を増やすことにしっかり取り組む。